



ゆらこ

2005.6.15

マーク制作: 関知磨子(秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

(融合研のホームページ) <http://www.yu-go.info/>

(事務局) 〒273-0122 千葉県佐倉市中志津7-17-4 (TEL & FAX) 043-463-1929

メール会員には印刷物での会報は郵送されません。印刷物として欲しい方は、ご自分でプリントアウトをしてください。その分、メール会員にはホームページやメール等による情報面で様々な特典があります。是非、上記のホームページをご覧ください。

印刷物会員は、同封の葉書で「会員の更新」をするかどうかをご連絡ください。

総会の議決内容があります。高知フォーラムでの総会に参加出来ない会員は、ホームページか同封の葉書で(印刷物会員のみ) 賛否をご連絡ください。

本号の内容

巻頭言 : 「縦のコーディネート力について」 宮崎 稔(融合研会長; 習志野市立鷺沼小学校)

1 高知フォーラムの内容; 参加募集が始まりました。

2 融合研地域子ども教室の概要; 全国各地で、23の教室が開催されます。

3 通信による総会の案内

高知フォーラムに参加できない方は、紙上およびホームページでの参加・意思表示ができます。

印刷物会員は、同封の葉書で返送してください。

メール会員は、ホームページから返信してください。

平成16年度事業報告

平成16年度会計報告

平成17年度事業計画

平成17年度役員(案)

その他、事務局会議での決定事項から提案します。

4 事務局から; 会員登録をお願いします。

5 その他

資料集の送付

2007年度のフォーラム開催の立候補を受け付けます

融合研年報「学社融合2005」に収録する研究実践報告を募集します

巻頭言 縦のコーディネート力について

宮崎 稔（ 融合研会長；習志野市立鷺沼小学校）

8月27日（土）～28日（日）は、初めて四国で行われる「高知フォーラム」です。ここでは、コーディネート力に視点を当てています。学社融合の推進には、コーディネータの存在が大事であるということが多くの人から指摘され、前回の盛岡フォーラムでも明らかになってきましたので、一層の論議を深めたいという思いからのテーマ設定です。そこで、コーディネートとはなにかということについて、高知フォーラムでの論議に少しでも役立てばと思い、私なりに考えていることを述べたいと思います。

1. 縦のコーディネート力とは何か？

コーディネートについて融合研で語られているのは、「学」と「社」をどうコーディネートするかとか、「社」と「行政」とをどうコーディネートするか、（あるいは個人と個人を）というように使われることが一般的です。つまり、組織と組織や人と人を横につなぐということです。

それはとても大切なことではありますが、学社融合がなかなか推進できないでいるという人達の悩みを聞くにつれ、私は、あまり話題になってはいませんが、横だけではなく「縦の」コーディネート力こそ必要なのではないかと思うのです。縦のコーディネートとは、いろいろな考えの人がいる組織の中の意思を一本につなぐということです。中間管理職が、トップと部下をどうつなぐかというようなこともそれに入るかと思えます。またトップなら、どうリーダーシップを発揮して、部下に対して意思を一本化するかということも入るかと思えます。学校なら学校の中を、PTAならPTAの中をどうまとめていくかということが、まず学社融合のスタートとして重要になってくると思うのです。特に学校の中はなかなか一本化しないために、その意思のある人がいても融合の推進がはかばかしく進まないということが多いのではないかと思うのです。社会教育主事等を経験し、学社融合の必要性については充分に分かっている人が現場に下りても、なかなか推進できないということも報告されていますが、縦をつなぐコーディネートについて考えてみるのも必要なことかと思うのです。

2. 私の実践例から

私の例をもとに具体的に話します。

前任の大久保東小学校では、不審者による未遂事件が続発しました。教師と保護者や地域ではパトロール等を繰り返しましたが、事件は無くなりません。そこで、職員から「効果があるかどうか分からないけど、やってみるのも一計かと思う。」ということで、**常時腕章を着けて外出する**ということを提案しました。（詳細は、昨年度の「年報」創刊号29ページ参照）今ではマスコミでも似たようないろいろな事例が取り上げられていますが、当初は職員にもPTA側にも疑問視する声がありました。「でもとにかくやってみよう。」と**意思統一**して始めました。ところが、パトロールの大変さに比べて「出来る人が」「出来るときに」「無理なく」できたために、またそれ以降事件がパタッとなくなったために市内やその他でも採り入れるところが増えてきました。職員の負担もへり、また学区内の地域の人からは、「学校はよい考えを出してくれた。」と喜ばれて活動は継続したのです。

別の事例では、赴任直後は、校門が閉められ児童は授業が終わると下校させるということで不審者対策としていました。生徒指導担当者にこのことをどう思うかと尋ねると、「狭い空き地や公園で遊ぶより、放課後に一番安全な場所は校庭だと思うので、遊んでいてもいいようにしたいが・・・」ということでした。そこで職員に諮ると、「同意見だが、教師はついていられないので、安全面で心配。」という意見が大勢を占めました。**学校側（教師）の意思**がはっきりしていたので、学区のおもだった組織の長を集めて、実施までにはいろいろな手続きがありましたが、今年から融合研でも取り組んでいるいわゆる「地域子ども教室」のような放課後に学校で遊んでいる、それを保護者や地域の人が見守るということを日常的に始めました。子どもの喜ぶ顔を見て保護者も喜びましたが、関わってくれた地域の人（特にお年寄り）は、とくにうれしそうでした。

今、鷺沼小学校では「子どもをもっとたくましくしてやろうじゃないか。」と、おやじの会ができて活動を始めています。これも職員の学校評価で「ひ弱な子どもの実態」が考察され、それを学校評議委員会等を通じて地域へ発信したので、それに応えてくれたからこそできたことです。

このように地域が動きやすいようにするには、また継続しやすくするには、子どもの実態を知っている教師が意思を統一して発信すればよいと思います。なにしろ実際に活動するのは地域の人のほうが断然多いのですが、学校の意味に左右されるという関係性（上下関係のような）が、まだ日本では普通なのですから。逆に、教師が意思統一していないことを一部の教師が先回りして動くと、教師間にもぎくしゃくした関係が生まれて、地域の人やりにくい（せっかくやろうと集まっても、なんだかヘンだと感じて、思い切って出来なくなる）という状況になりやすいものです。

校長としては、上記の3例については、組織の中の教師にはもう経過報告をするだけで済みました。そして「こんなことも地域と共にやりたい」と、とくに学年の授業に対して教師が発信するいろいろなアイデアに対しては、私は地域にメッセージャーとして呼びかければよくなっていきました。様々な呼びかけに、地域の人は知恵をしぼって、自らも実に楽しく活動してくださいました。横をつなぐコーディネータとしては、私は「子どもや教師がこんなことを言って喜んでいましたよ。」と伝えるだけで、地域の人には喜んでもらえて、ますます活動が発展するというラクなコーディネータでよかったのです。

3. コーディネータの第一歩、そして

私は、組織の中が一本化していないと学社融合は進展しにくい、そのためには、まず、組織をたばねるという縦のコーディネータが必要であると述べました。

さて、その次は、組織（とくに学校）の内部を知らせることが大切であると思います。今、内部を閉じていたままで学校にとって必要なことだけを一方的に依頼している学校開放が多いように思います。またあるときはお願いしても、必要が無くなったらオサラバという地域の人を使い捨てるのが横行しているように思えてなりません。教育課程上、それはある程度避けられませんが、このような学校側のご都合主義では、地域の人が学校を信頼して継続的に学社融合を推進していくのは難しいことにはないかと思えます。学校という場の中身を地域の人は詳しくは知りません。子どもの実態もよく分かりません。教師にとっては当たり前のことが、すごく感心されたりすることも枚挙にいとまが無いほどです。地域の人に、一緒にやろうと呼びかけるならば、まるごとの情報提供をしていけば、いい知恵も出してくれたりして継続できる別の道も見つかるかもしれません。まるごとの情報提供では、マイナス的なことも知られてしまいますが、単にその部分だけの人材ではなく、一緒に子どもを育てていく仲間（こちら側の人）であるという認識に立つようにすることが、教師としては必要なのではないかと思うのです。かつて、「完璧な組織なんて一つもないよ。うちの会社だってそうだ。でも、学校が全てをさらけ出して、だから一緒にやろうという姿勢は、だから信頼できる。」と言われたことがありました。何を一緒にやると良いのかを教えてもらわなければ（知らなければ）、協力することも一緒にやることも出来ないではないかと思えます。そのような情報発信の仕方についても組織内で共通理解をしておくことが次に大切なことであると思います。融合の推進に向けてのスタートラインが信頼で始まれば、地域側のコーディネータは、発信すればいくらでも人を探してくださいました。それを私の実践で実感しました。

コーディネータの役割について論議するのも大切ですが、結ぶべき対象の内側が、今どういう状況なのかということを中心にきちんと見つめ、どういう姿勢で発信し続けていくかという構えもしっかりしていないと、せっかく結んでも（結んだつもりでも）継続しなくなるということになるのではないかと思うのです。

さて、高知県では「土佐の教育改革」が第二次の後半に入りました。これは、土佐（高知）をどう改革するかということではなく、「土佐から全国の教育のあり方を発信する」ことだと思っています。コーディネータ力の発揮によって、全国へ一層の学社融合の波が広がることを祈念しています。

みなさん、高知でお会いしましょう。

（6月25～26日には、鹿沼市で「学社融合の10年を振り返る」をテーマに北関東フォーラムが開催されます。どちらも、大いに意義のある会になると思いますので、ぜひご参加を！）

1 高知フォーラムの内容

さて、高知フォーラムの詳細が以下のように決まりました。ホームページによる参加の受付も開始されました。多くの方のご参加をお待ちしています。(印刷物会員は、同封の申込書でファックスか郵送してください)

竜馬のふるさと・融合フォーラム2005 in 高知

～学社融合維新の夜明けせよ～

「学校と地域を結ぶコーディネート力」とは

1. 主旨：繋がる・そして融合する～学び、協働する喜びを感じる学校とコミュニティをコーディネートする

学校と地域の融合教育研究会では「学校と地域が連携・融合して行う教育・学習の理論と実践について研究し、学校や社会で行われる教育・学習の充実を踏まえた生涯学習の進展と、学校を活かしたコミュニティの発展に資することを目的」(会則第3条)に1997年以来活動してまいりました。

いつでもだれでも学べる生涯学習と、安全で安心なノーマライゼーションのコミュニティづくりに寄与する学校像が「学社融合」のめざす姿であると考えております。2004年の盛岡フォーラムでは、「学社融合」の考え方・手法を使い市民が自ら考え行動する実践を検証し、今市民が学校及び学校機能と協働して何を創りあげていくべきかということ、市民の活発な活動の事例を通して学びあいました。

土佐は、坂本竜馬を始めとし、明治維新の原動力となったとなった様々な人物を生み出してきました。特に竜馬のコーディネート力は現在でも高く評価されています。融合フォーラム2005 in 高知では、「繋がる・そして融合する」をテーマに、学社融合に求められている「コーディネート力」とは何か、ということ全国の事例から学ぶ場といたします。

2. 開催日：8月27日(土)12:00受付～28日(日)12:00

3. 場所：海辺の果樹園(高知県香美郡夜須町)

4. 主催：学校と地域の融合教育研究会 融合フォーラム2005 in 高知開催地実行委員会

5. 共催：高知県教育委員会・夜須町教育委員会

6. 後援：各地教委・NPO・社会福祉協議会など

7. 参加費 一般 会員2000円・非会員3000円 学生・会員1000円 学生・非会員2000円

8. 日程

第1日目 8月27日(土)

12:00 受付

13:00 開会 会長挨拶(宮崎稔)・来賓紹介・日程、会場案内

13:15 基調提言～大会の主旨と課題提起(融合フォーラム2005 in 高知実行委員長 和田智香)

13:30 パネルディスカッション トーク&トーク 「はじめての学社融合」
コーディネーター：越田幸洋(栃木県鹿沼市・融合研プログラム研究開発委員長)
パネラー：大崎博澄(高知県教育長)
矢吹正徳(日本教育新聞)
藤尾智子(岩手県紫波町職員)
木村泰子(大阪府小学校長)

15:30 分科会

はじめての学社融合

【コーディネーター：渡邊喜久(静岡県富士宮市；融合研副会長) 分科会担当：中野博文】
片山弘紀・旭東小学校(高知県高知市)
中川洋太・森の里(神奈川県厚木市)
大畑伸幸・綺羅屋7(島根県益田市)

学社融合のコーディネートを考える

【コーディネーター：油谷雅次(大阪府貝塚市；融合研副会長) 分科会担当：西森喜一】
矢野晴規(高知県津野町 第1期地域教育指導主事・葉山小学校校長)
山中千枝子(高知県 越知小学校)野老山おとなの学校
榎谷佳純・(大阪府摂津市；大阪府地域コーディネーター)

協働で作る学校と地域の安全

【コーディネーター：種田祝次（千葉県習志野市；融合研事務局員）分科会担当：安養寺淑江】
岡敦子（高知県大津小学校）・民間手法活用による防災教育
車育子（千葉県習志野市秋津コミュニティ）・防災キャンプ
江口勝善・柳昌孝（千葉県鎌ヶ谷市初富小学校）・学校の安全

学校の自立と地域の協働

【コーディネーター：野澤令照（宮城県仙台市；融合研副会長）分科会担当：岡崎伸二】
岡崎伸二（高知県高知市）・高知商業高校のプレゼンとコーディネートの体験談
堀越幾男（東京都足立区教育委員会）・足立区の教育改革

学校図書館活動と読書ボランティア活動を考える

【コーディネーター：上農良廣（千葉県船橋市；融合研千葉県支部長）
分科会担当：西村景男・吉永公明】

細川佳南（高知県土佐町）安藤公子（高知県本山小学校）・学校図書館の充実と地域のサポート
松村雅子（静岡県富士宮市）・読み聞かせボランティア活動

学校と地域を結ぶPTA活動、おやじの会活動

【コーディネーター：小山みさ（千葉県市川市；融合研監査）分科会担当：門田満穂】
佐々木貞寿（高知県窪川町農業青年団トピア）
松岡雅士（高知県窪川町）東又小学校のピオトープづくり
朝山和孝（愛媛県松山市）PTA連合会の取り組み

18:00 屋台フォーラム(ポスターセッション 全国各地の実践ミニ発表)

18:45 懇親交流会*競り市(お土産お披露目会)

第2日目 8月28日(日)

8:30 融合研総会

9:00 分科会報告

9:45 パネルディスカッション 「学校と地域を結ぶコーディネーター力とは」

コーディネーター：宮崎稔（習志野市鷺沼小；融合研会長）

パネラー：橋本大二郎（高知県知事）

岸裕司（習志野市秋津コミュニティ・融合研副会長）

庄子平弥（宮城県仙台市・融合研相談役）

前田恵（徳島県海部町教育長）

12:00 閉会

13:00～

文部科学省委嘱事業・子どもの居場所づくり「地域子ども教室の取り組みについて」が予定されています。
各地での様々な実践が紹介されるものと思われます。(担当:庄子平弥)

お問い合わせ・申し込みは「融合研事務局」宮崎まで

TEL/FAX 043-463-1929

miyazaki@jb3.so-net.ne.jp

2 融合研地域子ども教室の概要

前号で詳細を述べ、実施の募集をしていました、文部科学省の事業委託によって開催される「地域こども教室」が、以下のように決定しました。お近くで開催されるものがある方は、是非、ご協力を！！

地域子ども教室(融合研)

番号	地域	代表者名	教室名	内容
1	北海道 (歌登)	渡部 恒久	うたのぼり放課後「ふらっと」たまり場	体育館・トレーニングルーム等利用 パークゴルフ、ゲートボール、学習等
2	東北 (青森)	棟方 秀和	青森中央キッズカレッジ	短大を開放・拠点教室を設置 農作業体験

3	東北 (岩手・紫波)	佐藤 たかし (藤尾 智子)	あいぼら子どもパビリオン	商店会空き店舗にブースを設置 土日は「子どもITデー」として事業実施
4	東北 (岩手・紫波)	巻藤 一吉 (藤尾 智子)	紫波ドリーム	体育指導員を中心に活動 親子にスポーツの楽しさを伝える
5	東北 (仙台大倉)	渡辺 徹 (庄子 平弥)	大倉子ども教室	古民家への宿泊、ホームステイを実施 里山での生活を楽しませる
6	東北 (仙台泉)	松崎 雅威 (野澤 令照)	ゆうごうまなびねっと泉	学区内小中学校が連携しての実施 中学生による指導、昔遊び等
7	東北 (仙台・青葉)	吉田 修 (鈴木 一彦)	ミュージック音楽教室	プロの音楽家の演奏を聞かせる活動 楽器作りを通じた遊び、作曲活動
8	東北 (仙台・青葉)	菊地 淳 (野澤 令照)	スマイルパーク旭ヶ丘	旭丘小を拠点、絵・凧・図鑑作り等 休日：森林公園、科学館、文学館利用
9	東北 (仙台・青葉)	大友 重明 (堤 裕子)	ゆうごう立町冒険クラブ	市内空き店舗、学校等を利用 体験活動、造形活動を実施
10	東北 (仙台・若林)	佐藤 憲子	遠見塚 YOU-GO クラブ	マイスクール遠見塚での活動 自由に時間を過ごせる場所を提供
11	関東 (秋津)	橋村 清隆 (車 育子)	秋津・地域であそぼう！	秋津小コミュニティルーム等での活動 各種の趣味やあそび活動、学習活動他多彩
12	関東 (四街道)	江口 勝善	四街道市地域子ども教室 ”まじゅりんこ”	高校生・大学生との協働 空き店舗等を利用した溜まり場づくり
13	関東 (君津)	斉藤 正一	融合研君津わくわくパソコン教室	市内各小学校等で実施 将来的に各小学校に根付かせる計画
14	関東 (鹿沼)	越田 幸洋	ゆうごう子ども放送局	子どもたちによるCATV番組の制作 CATVによる居場所づくりキャンペーン
15	関東 (鹿沼)	越田 幸洋	板荷ふるさとオペレッタ教室	オペレッタの創作・公演 舞台装置の製作等
16	関東 (鹿沼)	渡邊 真知子	北光クラブ子ども教室	大学生が企画する子どもの遊び場づくり
17	中部 (富士宮)	松村 雅子 (渡辺 喜久)	ふじっこ広場	地域学習センターにて活動 ポニー飼育、読み聞かせ、スポーツ 等
18	中部 (御殿場)	櫻井 剛	南っ子小学校	小学校における活動 各種親子教室の実施
19	四国 (高知)	和田 智香	あたごっこクラブ	各種教室の実施 親対象の研修も実施
20	四国 (高知)	白土 圭志	旭東っ子教室	学校・地域施設を活用した体験活動 シニアネットワーク・学生による学習
21	四国 (松山)	中 政勝	味生「育ちの森」 わくわくチャレンジ教室	スポーツ、パソコン、キャンプ等体験活動
22	中国 (島根)	増田 清子 (渋谷 秀文)	つわぶきワクワク広場	昔遊び、スポーツ活動等の実施 高校生ボランティアによる学習指導
23	九州 (福岡)	三嶋 栄幸	はたえ寺子屋	昔の遊び、算数の学習、読み聞かせ等 公民館等の施設を利用

3 通信による総会

これまで、規約に基づく年1回の融合研の総会はフォーラムの際に行ってききましたが、必ずしも会員の過半数の参加があるわけではありませんでした。そこで一昨年度より、フォーラムに参加できない会員にも総会で意思表示をしていただけるようにということで、通信による返信をもとに総会に参加していただくことにしました。今年は、その返信分と高知フォーラムでの総会出席者を合わせて、過半数の参加をもって成立の運びとなります。

印刷物会員は返信用の葉書に、またメール会員はホームページから、それぞれ必要事項を記入の上返信くだ

さい。ホームページでの投票は後日メーリングリストにてご連絡致します。

(1) 総会の議案

- 平成16年度事業報告
- 平成16年度会計報告
- 平成17年度事業計画
- 平成17年度役員(案)
- その他、事務局会議での決定事項から提案します。

(2) 内容

平成16年度事業報告について

- 16. 5. 1 盛岡フォーラム打ち合わせ 場所; 仙台メディアパーク
- 16. 5. 15~5. 16 千葉支部大会 場所; さわやか千葉県民プラザ
- 16. 6. 30 事務局会議 場所; パンゲア
- 16. 7. 31 融合塾・プログラム開発委員会・事務局会議
- 16. 8. 21~8. 22 盛岡フォーラム 場所; おでって
- 16. 9. 23 事務局会議・融合塾・プログラム開発委員会 場所; パンゲア
- 16. 10. 23~10. 24 北関東支部大会 場所; 作新学院ボランティアセンター
- 16. 11. 30 事務局会議 場所; パンゲア
- 16. 12. 11 役員会・融合塾・プログラム開発委員会 場所; パンゲア
- 16. 12. 29 事務局会議 場所; パンゲア
- 17. 1. 11 融合塾・プログラム開発委員会 場所; パンゲア
- 17. 1. 16 ちいき子ども教室打ち合わせ 場所; 仙台メディアパーク
- 17. 1. 29 高知フォーラム打ち合わせ 場所; 高知海辺の果樹園
- 17. 2. 11~2. 12 厚木フォーラム 場所; 厚木ヤングコミュニティセンター
- 17. 2. 20 事務局会議 場所; パンゲア
- 17. 2. 27 地域子ども教室全国発表会参加 場所; 国際会議場

平成16年度会計報告

収入の部	1,374,249円
(内訳) 繰越金	629,185円
会費(3000円×242)	726,000円
資料代	19,000円
利息	64円
支出の部	867,514円
(内訳) 通信費	147,760円
会議費	35,180円
事務用品	40,229円
ドメイン料	75,285円
年報代	297,360円
交通費	271,700円
残高	506,735円

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2005.3.31

監査 常田 洋
小山みさ

平成17年度事業計画

- 1) フォーラム関係；
高知フォーラムの開催
東京フォーラムの準備
支部活動によるミニフォーラムの支援
- 2) 地域子ども教室関係；
融合研本体とは切り離して実施。側面的に事務局や各地の実行委員会を支援する。
- 3) 資料集の発行；
第2集のCDによる発行
- 4) ホームページ関連；
編集委員会による計画的な整備と更新
- 5) 融合塾関連；
プログラム研究開発委員長による勉強会を実施
- 6) その他；
事務局会議の開催
総会・役員会での決定事項を実施する

平成17年度役員（案）

会長	宮崎 稔	(千葉県習志野市立鷺沼小学校)
副会長	岸 裕司	(千葉県習志野市秋津コミュニティ)
同	油谷雅次	(大阪府貝塚市貝塚北小コミュニティルーム運営委員会)
同	野沢令照	(仙台市立黒松小学校)
同	渡辺喜久	(静岡県芝川町立芝川中学校)
監事	小山みさ	(市川市コミュニティクラブ)
同	常田 洋	(市川市コミュニティクラブ)
プログラム研究開発委員長	越田幸洋	(鹿沼市「融合教育研究所」)
相談役	庄子平弥	(仙台市「シニアネット仙台」)
事務局長	宮崎雅子	(佐倉市主婦)
東北支部長	野沢令照	(仙台市立黒松小学校)
千葉県支部長	上農良廣	(船橋市小栗原小学校)
北関東支部長	戸叶俊文	(館林市教育委員会)

事務局体制については、人選の後、お知らせします。

4 事務局から；

会員更新の手続きをお願いします。

メール会員は、ホームページから
メールで

印刷物会員は、同封の用紙でご返信下さい。

5 その他

資料集の送付；

融合研で作成し、すでに第1集をお届けしましたが、高知フォーラムの開催日を目途に第2集の編集が進んでいます。今回も、日本体育大学の研究活動の一環とのタイアップで廉価に作成することができます。ただ、前号でもお知らせしましたが、第2集は、CD化したものになります。パソコンを使わない方には、ご不便をおかけしますが、工夫して紙ベースにプリントアウトをしてお使いください。

2007年度のフォーラム開催の立候補を受け付けます。本部からもバックアップしますので、「まだ、活動が進んでいないから。」と遠慮せずに、立候補のご検討をお願いします。

融合研年報「学社融合2005」に収録する研究実践報告を募集します

融合研年報「学社融合2005」に収録する研究実践報告を募集します

- 1 募集内容 学社融合に関する論文、実践報告レポートなど
- 2 執筆要領 タイトルを中央揃えで記入する
都道府縣市町村名 会員№ 氏名をまず記入する。
適宜項目立てをして記載する。横書き。文体は自由。
写真は使用しない。
A4版4枚以内とする。1ページは40字×40行を最大とする。
執筆の謝礼はありません。
* 会員以外にも配布されるので、執筆内容の公開に関しては執筆者本人が責任を持って関係者の承諾を得てください。
パソコン使用者はワードで作成する。パソコンを使用しない方は、400字詰め原稿用紙に横書きする。
- 3 提出期限 2005年6月20日（それ以外にも、随時受け付けています）
- 4 提出先 パソコン使用者は、メールに添付し、プログラム研究開発委員会委員長「越田幸洋」に送付する。
アドレスは mailyukl@bc9.ne.jp
パソコンを使用しない方は、下記に郵送する。
〒322-0007 栃木県鹿沼市武子539-31 越田幸洋
- 5 問合せ先 プログラム研究開発委員会委員長 越田幸洋 Tel & fax 0289-63-4788